ハートだより

香川県立高松支援学校
人権・同和教育部
2025年２月28日発行
第59号

手紙

教 頭　　黒田 友香

2025年１月、ある先生が、新年の挨拶を記した手紙を私に届けてくださいました。

> 新年おめでとうございます。
> 　今年も明るく　元気に　子どもたちのために
> 　そして　自分自身のためにも努力してください。
> 　応援します。
>
> 　　　　過去に感謝　現在に信頼　未来に希望
>
> 　この精神でいきたいと思っていますので　よろしく…
> 　　　　　　　　　　　　　　　　　　中原　肇
>
> 木村みどり　様

木村みどり先生（旧姓）は、１月から本校で長期研修職員の代替として勤務してくださっている 松本みどり先生です。中原 肇は私の父。平成10～12年度に本校で勤めていました。「昔、高松養護学校で勤めていた時に、お父様からこのようなお手紙をいただいてとても嬉しかったんです。黒田先生が娘さんだと知って、是非届けたいと思って…。当時の手紙を探したら、すぐに出てきたんです。まるでこれを届けるように頼まれているように思えました。」

懐かしい父の字でした。過去に感謝　現在に信頼　未来に希望、 父らしい言葉です。20年前に病気で他界しましたが、時を超えて父と会話できたたような気持ちになり、胸が熱くなりました。当時の手紙を今まで大切にしまっておいてくださり、父や私のことを思いやり、手紙を届けてくださった松本先生のあたたかな心遣いに、感謝の気持ちでいっぱいです。

教育現場は常に人と人､心と心の繋がりで成り立っています｡相手を思いやるあたたかな心､その心を繋ぎ、紡いでいくことの大切さを、改めて教えていただきました。

過去に感謝　現在に信頼　未来に希望。父はどんな未来を描いていたのか…
空を見上げ、時折、そんなことを思います。

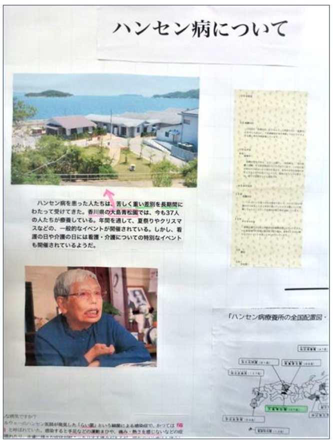
部落解放第40回香川県講演会に参加してきました

午前の第Ⅰ講座で、ハラスメントや差別のきっかけとなり得るアンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）の存在と影響の大きさについて学びました。

私たちは、思想の偏りを持っていることを自覚し、取り込むべき情報を慎重に見極めて、どのような行動を取るべきか決めなければいけないことに気づくことができた講演でした。

PTA役員　片岡　彩

校内人権作品展 出品作品の紹介



高等部3年Ⅰ組

『ハンセン病について』

ハンセン病に関する正しい知識をもち、

様々な感染症に基づく差別をなくしましょう。

小学部６年２組

『あいさつ　あつまれー！』

一日のはじまりに、友達と

挨拶運動に取り組みました。

中学部Ｃコース

『やさしい　ことば』

「ゆきのゆうびんやさん」を読んで、

【やさしいことば】を皆で見つけました。

第75回全国人権・同和教育　研究協議会（熊本大会）に参加して

小学部　赤木克年

１１月30日（土）、１２月１日（日）、熊本駅から路面電車に乗って、快晴の熊本城下、加藤清正公の像が見守る熊本市民会館で行われた全国人権研究会の特別分科会に参加しました。講座は四つあり、どれも素晴らしかったのですが、二日目の第三講座で、「光座」という、地元の人権劇団が演じてくださった「ひとつだけ」という劇が特に印象的だったので紹介します。

小学生のサトミの家では「ミイちゃん」という牛を飼っていて、サトミはミイちゃんと一緒に姉妹のように育ちましたが、ある年、農作物が不作で、ミイちゃんを売らなければならなくなりました。

食肉処理センターで働いていたタカシは、ミイちゃんを抱きかかえ「ごめんね」と泣きながらお別れするサトミを見て、「見なきゃよかった」と思いました。次の日、タカシが威嚇してくるミイちゃんをなだめ、懐かせ、何度もなでてやり、肉になってくれるよう言い聞かせると、ミイちゃんは一粒の涙を流しました。「おれはなんというきれいな生き物を相手にしていたのだろう。おまえはおれ達と少しも変わらんね。ありがとう」タカシの中で何かが変わりました。タカシは、ミイちゃんが苦しまないよう一発で急所を撃ち、ミイちゃんをしとめました。

ミイちゃんがお肉になって帰ってきました。サトミは祖母に「あんたが食べてやらんとミイちゃんが肉になった意味がないとね！」と叱咤され、「ミイちゃんごめんね、ありがとう」「おいしかぁー。ミイちゃんの肉、おいしかぁ。」と泣きながら食べました。

タカシの仕事に反発して終末医療の現場の介護士になった娘のヨウコの元では、何人ものおじいさん、おばあさんが亡くなっていきました。ある時、ヨウコが言いました。「おとうさんの仕事、私の仕事といっしょやね。命を見届けるものすごい仕事やね！」

この劇を見て、私は今まで自分が食肉処理の仕事を、どこか遠い世界のことのように思っていたと気付きました。命が生まれること、生きていくこと、終わること、そのどれもが奇跡といえる尊いものです。そして、そのいずれかに関われることは、何ものにも代えがたい素晴らしい体験なのだと改めて思いました。